題材「うちわに色付け 滲み絵」

1 本時の学習計画

(1) 学習のねらい

うちわに使用する和紙を完成させ、色付けをして完成させようとする子ども達が、滲み絵という水彩絵の具を用いた技法に触れることを通して、水をたっぷり含ませた絵の具が紙に滲む感覚の不思議さや、色と色とが混ざり合って生み出す色の面白さに気が付き、滲み絵の技法を用いたり、自分の描きたい絵に合った書き方を選択することで、描きたい絵や模様を描くことができる。

(2) 本時の学習材

滲み絵（技法）

- 子ども達は、和紙作りを終え、どんな絵を描くか考えていこう。また、絵の苦手な子供は、何を描いたら良いのか、どう書いていいのか悩むだろう。そうした子ども達が、絵だけでなく模様や、色を置いていくだけでも味が出ることに気が付くことができるよう、この学習材を提示する。
- 本学習材は、和紙や絵筆に水を多く含ませて描くことで絵の具が滲み、色と色が混ざり合う「滲み絵」という技法である。絵や模様だけでなく、色を置いていくだけでも不思議な色合いが生まれることの良さ、また和紙に絵の具が滲んで広がっていく様子の面白さに気が付くことができることが期待できる。

(3) 学習の展開

過程	学習活動	予想される子どもの動き	時間	指導と評価
課題把握	1「滲み絵」についての説明	学習問題 うちわに、思い思いの絵を描いてみよう ○色を置くだけなら、簡単そうだな。 ○グラデーションを使って、絵を描いてみたい。 ○赤と黄色を使って、模様を描いてみたい。	5'	・滲み絵の説明を、テレビに映しながら説明する。 ○うちわの見本 1本 色の塗り方の説明 4枚 ・滲み絵の技法を用いるかどうかは、子どもの判断に委ねる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 学習材 滲み絵（技法） </div>
展開	学習課題 水彩絵の具を用いて、うちわに色を付けてみよう		30'	・6人班の形に机を並び替える。 ・和紙班と色づけ班で、それぞれ3班分ずつ机を使用する。各藩の人数によって机の数は調節する。 ○後片付けに時間がかかると予想されるので、活動も終盤に入り、すでに終わっている子供には、後片付けをしても良いことを伝える。
終末	2うちわに色付けをする班と、和紙作りを続ける班に分かれる。 3片付けをする。	○滲み絵を使って描いてみると、ぼやっとした感じがして、おもしろいな。 ○絵を描かなくても、模様を描けばいいんだな。 ○青と黄色が混ざったら、緑色が出てきたよ。 ○私は、ぼやっとした絵にしたいから、にじみ絵ではない絵にしよう。	10'	評価 ・自分の描きたい絵を、滲み絵の技法や、好きな書き方を用いて描ける。 ・絵の具が滲む様子や色が混ざり合う様子を味わえる。

2 子どもと題材（略）